

## はじめに

近年、ダム止水設計は、地質調査法や解析手法の進歩とともに、地山に軟岩、低固結層等の低透水域があればこれらの不透水性を活用する考え方に大きくシフトしており、従来は掘削除去していた地盤も耐変形性に問題がなければできるだけ残し、止水に係わる施工量と範囲を最小限に抑えることで、コスト低減と改変面積減による環境影響低減を図ることが求められている。

このようなダムの基礎地盤の止水設計方法の変化を反映して、グラウチング技術指針(平成15年度本格運用)が改訂された。グラウチングは、ダムの基礎地盤に必要な遮水性を確保し弱部補強による均一性向上を図るもので、最も基本的でかつ施工実績も多い工法である。

グラウチング技術指針改訂の主旨は、安全性を損なわないことを大前提として、①グラウチング本来の施工目的・施工範囲の明確化、②基礎岩盤の状況に適したグラウチングの実施、③施工状況に応じたグラウチング仕様の継続的な見直しを基本的な柱として、グラウチングの施工コストの低減を図ろうとするものである。

本資料は、改訂されたグラウチング技術指針に則って建設され、既に試験湛水を終えた11ダムについて、その基本的な諸元、試験湛水中に観測された揚圧力、排水量等を調査してとりまとめたものである。

平成18年11月

国土交通省 国土技術政策総合研究所

河川研究部 水資源研究室長 安田 成夫